

◎特集 1 / 「開館 30 周年記念 県美 30 年の歴史 わたしが選ぶこの一点」 展

◎特集 2 / 『地域産業の担い手育成プロジェクト

(文部科学省・農林水産省共同事業)』の指定について

- 県立博物館秋期企画展 甲州食べもの紀行—山国の豊かな食文化—
- 県立考古博物館第 26 回特別展 「埋められた財宝～大形装飾土器、銅鐸そして埋蔵金～」
- 平成 20 年度山梨県公立高等学校入学者選抜に関する意識調査結果について
- 生涯スポーツ社会の実現に向けて～総合型地域スポーツクラブの設立・育成～
- 学ぶたのしみ、生きるよろこび『山梨ことぶき勸学院・大学院』
- ミュージアム甲斐・ネットワーク / 環境省生物多様性センター・北杜市長坂郷土資料館
- らくがき …… 巨摩高校 山本創平教諭
盲学校 白倉明美教諭
- 県立文学館平成 20 年度秋の企画展 飯田龍太展
- 学校紹介 / 北杜市立明野中学校・甲府東高校
- 総合教育センター情報 / 教育指導部
- 新教育委員長、新教育委員就任挨拶
- 県立図書館 / 「レファレンスの道具箱 洋書について調べてみましょう！」
- 山梨の文化財 / 県指定有形文化財 (書跡) 保坂家文書
- 主な行事予定



特集1

県立美術館 特別展

「開館30周年記念 県美30年の歴史 わたしが選ぶこの一点」展

— 県立美術館 —

置県百年を記念して農業試験場跡に建設された県立美術館が開館したのは、1978（昭和53）年11月3日の「文化の日」。また公立美術館がそれほど多く開館していない時期でした。

そのときはじめて一般に公開されたのは、19世紀フランス人画家ジャン＝フランソワ・ミレーの2点の作品《種をまく人》と《夕暮れに羊を連れ帰る羊飼い》、同時代に活躍したバルビゾン派の画家たちの作品、ならびに「山梨県ゆかりの作家」を中心にした収蔵作品でした。ミレーやバルビゾン派の作品を収集のひとつの柱にしたのは、それらに描かれた穏やかな農村風景が、自然に恵まれた「農業県山梨」にふさわしいと考えたためです。

とはいうものの、ミレー作品の収集を可能にしたのはいくつもの偶然が重なったおかげです。美術館建設準備をしていた1977（昭和52）年に、ミレーの代表作2点が海外のオークションに出たという偶然。そしてそれを購入することができたという偶然。このことは「偶然」というよりも「幸運」と言うべきかもしれません。山梨県がミレーを購入したことは、美術館開館前から県内外の新聞紙上を大いに賑わせていました。そして話題が冷めやらぬうちに、美術館の開館日を迎えたのです。

当時の新聞を見ると、開館初日の盛況ぶりを知ることができます。秋晴れに恵まれたこの日の入館者は4257人。開館前には、約20人の徹夜組も含めて、50人ほどの長い行列ができました。多くの人の目当てはミレーの2点の作品であり、絵の前には黒山の人だかりができました。作品そのものを見るだけにとどまらず、ミレー作品の複製画を求める人たちも多く、ミレーのポスターや絵はがきも飛ぶように売れた、と新聞各紙は伝えています。ミレー人気はとどまるところを知らず、開館わずか10ヶ月後には30万人に達することになりました。

県立美術館は今年、開館30周年を迎えます。開館当時40点弱だった所蔵品



ジャン＝フランソワ・ミレー
《種をまく人》1850年
山梨県立美術館

の点数も、現在では一万点を超えています。ミレー作品も70点ほどを所蔵するまでになりました。

開館30周年を記念して開催する特別展「県美30年の歴史 わたしが選ぶこの一点」では、当館の所蔵品約60点によって、この30年の歩みを振り返ります。作品とあわせて、開館当時のなつかしい映像や新聞、写真などの資料も展示します。30年かけて山梨県立美術館が「成長」してきた過程を見ながら、「そういえばこんなこともあった」「あんなこともあった」などと思いを語り合い、展示会を楽しんでいただければと思います。

なお、本展に先立ち、昨年7月21日から12月24日まで、美術館内3箇所、館外4箇所（南アルプス市立春仙美術館、なかとみ現代工芸美術館、河口湖



望月春江《惜春》1978年
山梨県立美術館

美術館、ミュージアム都留にアンケートボックスを設置しました。アンケートでは、お気に入りの一点をお選びいただくと同時に、作品にまつわる思い出なども寄せていただきました。その結果、作品の人気投票には1000票以上が投じられました。

本展では人気投票の結果を発表すると同時に、上位15点に入った作品を展示します。『教育やまなし』をお読みのみなさまのなかにも、アンケートにご協力いただいた方がいらつしやるかと思えます。この場を借りてお礼申し上げます。みなさんのお気に入りの作品は何位になったでしょうか？結果はぜひ美術館で！作品のそばにはみなさんから寄せられたメッセージのうちいくつかを掲示します。当館の所蔵作品に対するさまざまな人のさまざまな想いを感じてください。

同時期に開催する常設展では、当館の名品を展示いたします。あわせてご覧ください。

会期：平成20年9月13日（土）～12月21日（日）

休館日：9月16、24、29日、11月4、10、17、25日、
12月1、8、15日

（10月は休まず開館いたします）

会場：特別展示室

開館時間：午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）

入場料：一般 五〇〇（四〇〇）円

大・高生 二二〇（二六〇）円

中・小生 一〇〇（八〇）円

※（ ）内は20名以上の団体、宿泊者割引料金

小・中・高校・特別支援学校生は土曜日無料

65歳以上の高齢者（健康保険証等持参）は無料

障害者手帳をご持参の方は、ご本人とその介護者1名が無料

11月20日（木）は県民の日のため無料



美術館外観

特集2

『地域産業の担い手育成プロジェクト』

(文部科学省・農林水産省共同事業)の指定について

— 高校教育課 —

平成20年7月7日、文部科学省は、本県を、「地域産業の担い手育成プロジェクト」(文部科学省・農林水産省共同事業)一推進地域として指定しました。事業実施期間は、平成20年度から3力年間となっております。事業の具体的な取組については今後決定するため、ここでは事業の概要・計画等について紹介します。

■「地域産業の担い手育成プロジェクト」導入の背景

団塊の世代が大量退職時期を迎える「2007年問題」や若者の職業意識の希薄化が指摘される中、地域産業を支える人材の育成や技術の継承への対応が求められています。

そのため、文部科学省では農林水産省と連携して、農業高校等と地域産業・農業界が連携・協同し、地域において農業を担う専門的職業人を育成するためのプログラムの開発・実証を行い、その成果を全国へ普及させることとしています。

■「地域産業の担い手育成プロジェクト」の概要

◇本県事業の内容

本事業はスキーム図にあるとおり、県教育委員会と県農政部が共同して、地域産業界、特に農業及び農業関連産業と連携し、農林高校、山梨園芸高校、北杜高校の生徒を対象に行います。

内容としては、

- ① 農家及び関連産業の現場での実践的研修、
 - ② 技術者を招いての校内での実技研修、
 - ③ 教師の実践的指導力を高める現場研修、
 - ④ 地域と連携しての共同研究、
- の4つの柱事業の実践を通し、専門的知識・技術の向上や資格取得を図り、これら地域産業の担い手となる人材育成並びに教育システムの向上を目指します。

また、「産」「学」「官」の関係者で構成する人材育成連携推進委員会を組織して、農業系高校における実践的な人材育成プログラム開発を行います。

■平成20年度の計画

4つの柱事業を計画的に実施するために、本事業のコーディネーター及びコーディネーター的役割を担う「農業系高校と農業大学校との連携推進事業※」等を活用し、農政部や農業諸機関との連携を通して、専門教育の活性化と専門分野の知識・技能の習得を目指します。

柱事業の内容については、次のとおりです。

※平成19年度に農業(系)高校と山梨県立農業大学校が、連携教育の協定を取り交わし、生徒の研修や教職員との交流等を中心に高校3力年プラス農業大学校2力年の合計5力年を見据えた農業教育を推進している。

◇4つの柱事業の内容

先進農家・企業実習

① インターンシップ実習
先進農家での体験を通じた技術の習得、経営感覚の学習

② デュアルシステム実習
企業等での長期間実習を通じた専門的スキルや起業家精神の涵養

③ 農家実習
学んでいる学科に関連する農家(果樹農家等)での専門性を高めるための研修の実施

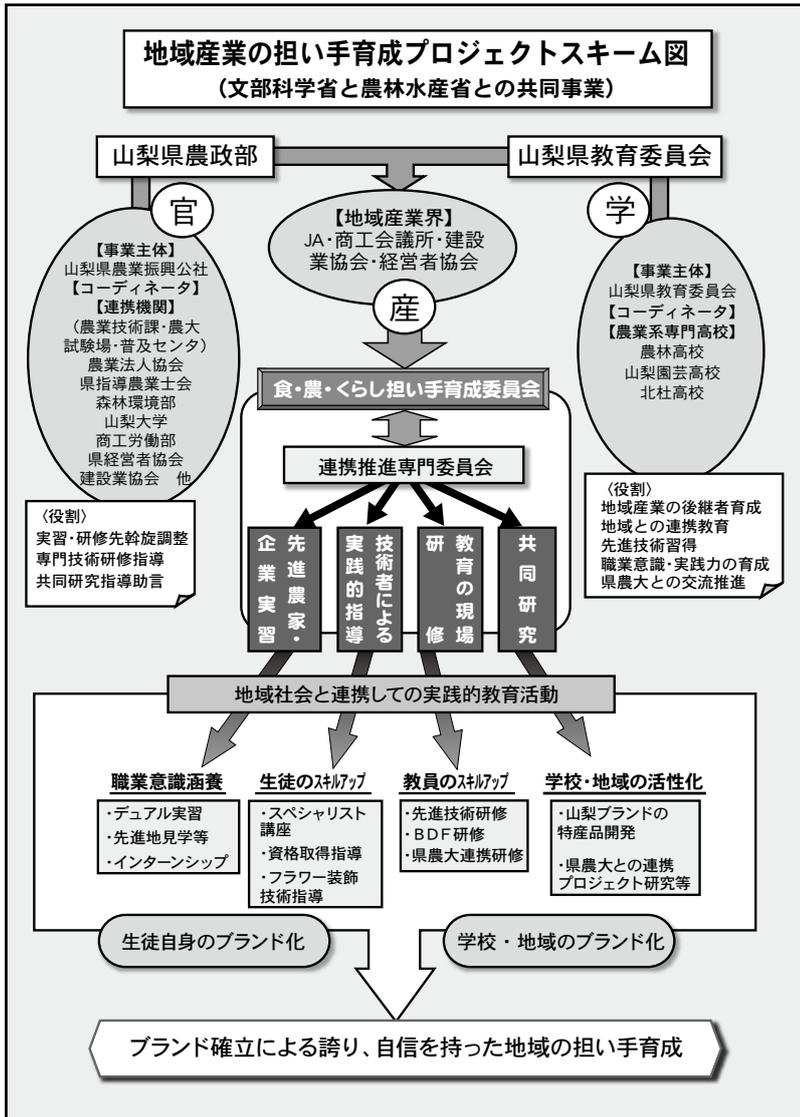
④ 現場実習
学んでいる学科の特性を進路に活かすための現場での実習

⑤ 先進地見学
学んでいる学科に関連する事業所や現場を直接訪れ、市場動向や経営及び技術・技能について学ぶことによる専門性の向上と職業観の育成

技術者による学校での実践的指導

① スペシャリスト講座
高度な専門技術・技能をもつ専門講師からの技術・技能の習得

② 栽培技術指導
農業大学校等の専門講師によるサポートを受けた専門教科の授業等による栽培技術・技能



① 教師の先進地視察研修
各分野の先進農家等の視察の実施

② 専門学習に関する研修
農業大学校との連携による関係学科教員の技術・技能を高める研修及び山梨大学やNPO・民間に委託しての技術・技能習得研修等の実施

③ フラワー装飾研修
フラワー装飾技能検定の合格を目指した専門講師からのフラワー装飾の基本的な技術・技能の習得

④ 講演・パネルディスカッション
各在校生徒70名程度と農業大学校の学生を対象とした農業経営者やアグリビジネス経営者等とのディスカッション等の実施

① 学校と地域産業との共同研究
民間関連企業等で教員が技術を学ぶ研修の実施

② 専門学習に関する研修
農業大学校との連携による関係学科教員の技術・技能を高める研修及び山梨大学やNPO・民間に委託しての技術・技能習得研修等の実施

③ 講師を招いた農業科教員研修
農業大学校との連携による農業教員を対象とした講演会の実施

④ 事業関連技術研修
民間関連企業等で教員が技術を学ぶ研修の実施

今後の具体的な計画は右記のとおりですが、事業のねらいである「地域産業の人材育成」の実現を目指し、有意義な事業として推進したいと考えています。

| 項目 | 期間 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|-------------------|-----------------|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|
| 1 先進農家・企業実習 | ① インターンシップ実習 | ↔ | | ↔ | | | | | | |
| | ② デュアルシステム実習 | ← | → | | | | | | | |
| | ③ 農家研修 | | ○ | | | | | | | |
| | ④ 現場実習 | ↔ | | | | | | | | |
| | ⑤ 先進地見学 | | | ← | → | | | | | |
| 2 技術者による学校での実践的指導 | ① スペシャリスト講座 | | | ← | → | | | | | |
| | ② 栽培技術指導 | | | ← | → | | | | | |
| | ③ フラワー装飾研修 | | | ← | → | | | | | |
| | ④ 講演パネルディスカッション | | | | | | | | ○ | |
| 3 教員研修 | ① 教師の先進地見学研修 | | | ← | → | | | | | |
| | ② 専門学習に関する研修 | | | ← | → | | | | | |
| | ③ 講師招聘による研修 | | | | | | | ○ | | |
| | ④ 民間関連企業等での研修 | | | ← | → | | | | | |
| 4 共同研究 | ① 地域産業との共同研究 | | | ← | → | | | | | |
| | ② 農業大学校との共同研究 | | ← | → | | | | | | |

◇ 各事業の概要と実施期間

洋ラン地域品種開発、サクランボの剪定・整枝法の研究、高山植物の保護と活用等の研究

② 学校と農業大学校との共同研究
モモ果実を利用した食品開発、モモの省力生産・高品質化（パラソル仕立て）のための技能・技術習得やバイオデューゼルの活用普及のための研究等

秋期企画展 甲州食べもの紀行―山国の豊かな食文化―

― 県立博物館 ―

一昨日の夕食に何を食べたか覚えていますか？
別に皆さんの脳の老化工具を判断しようという訳ではありません。普段食べているものにどれだけ注意を払っているかに少し思いを馳せていただきたいのです。

我々は宴会や記念日など、特別な機会に食べた料理についてはよく覚えていきます。しかし、普段口にしていくものについては、日常的なものであればあるほど、関心が薄いものです。実は食の歴史を明らかにする際にもこの点が厄介なのです。

県立博物館では今秋、山梨の食文化、特にその歴史に関する企画展を開催します。企画に際して一番困ったのは、先人達が日常的にどのような食事をしていたかを調べることでした。昔の人も我々同様、普段食べているものについてはあまり記録を残していません。

そこで注目したのが旅人達です。たとえば江戸時代の甲州庶民の食生活について豊富な記録を残した人物の一人に野田泉光院がいます。泉光院は日向国（宮崎県）の修験で、江戸時代後期に修行のため全国を歩きました。彼は旅の間、一日も欠かさず日記をつけていました。その日記には食事に関する記述が豊富です。

甲州でも「当国名物ハウタウ（ほうとう）」をご馳走になったことや、トウキビの団子や蕎麦の粉と野菜を練った珍しい料理を食べたことを記録しています。もちろん、当時の甲州人にとっては

珍しくも何ともなかったのでしょう。

旅人の文章には部外者の目で見たその地の文化の特徴的な部分が記録されます。泉光院の日記からは、この時期すでに「ほうとう」が甲州名物と認識されていたことや、他地域に比べ、米食より、その他の穀類を粉にして食べる粉食が盛んであったことを窺うことができます。

東海道五十三次で有名な歌川広重も食については好奇心旺盛な人物だったようです。彼は江戸時代後期に甲府の道祖神祭礼で使う幕絵を描くために甲州に招かれました。その際の日記には連日宴会があったこと、鰻重や鮓、蕎麦を振る舞われたことなどが記されています。

すべての旅人が食事について記している訳ではありません。道中の風景などについて書かれた記録に比べればむしろ少数派です。泉光院といい、広重といい、歴史に名を残す偉人達は食に関する関心も人一倍だったというところでしょうか。

一方で、特別な機会に振る舞われた料理については比較的記録が残されやすいと言えます。室町時代に各地の大名が將軍を迎えた儀式「御成（おなり）」の際の次第を記した「御成記」はその一例です。御成を初めとする、この時期の宴席は主従関係を確認する儀礼的な意味合いが強く、前例が重視されるために、使われた器や献立内容などが詳細に記録される傾向にあります。

さて、この時期の山梨といえば、やはり武田信

玄がどのような食事を口にしていたのか気になるところではないでしょうか。日常的な食事に関する資料は残念ながら皆無といってよい状況ですが、ハレの日の食事については、『甲陽軍鑑』の中に、本膳から七の膳までの饗応料理の記録があります。本展ではその豪華な内容も再現しますので、どうぞお見逃しなく。

《開催期間》

平成20年10月11日（土）～12月8日（月）

《観覧料》

一般一〇〇〇円、高校・大学生五〇〇円、
小・中学生二六〇円

《お問い合わせ》

山梨県立博物館 055-261-2631

「泉光院自画像」

（宮崎県立図書館蔵）



「武田流当家献立要伝書」
江戸時代の料理書。食器の寸法や料理の盛り付け方を記す。

第26回特別展 「埋められた財宝く大形装飾土器、銅鐸そして埋蔵金く」

— 県立考古博物館 —

列島のそれぞれの時代を象徴する財宝が、埋められた状態で発見されることがあります。例えば、縄文時代の巨大土器や、弥生時代の銅鐸、そして中世には金貨などがあげられます。

今回の特別展では、「埋められた財宝」と題して、歴代の財宝が、どのように作られたかを復元し、それらがいかに各時代の最高の技術力で作られた逸品であるか、また人々の心を結集した財宝であるかを展示します。

今回の展示で最も注目する点は、これらの財宝がおしげもなく埋められている点です。巨大土器は、打ち割られ、破片を重ねて埋められています。銅鐸は横にして鱗を立てて埋められています。この異様ともいべき埋め方埋納法に注目します。

そして、当時の社会が至上のものとしてカミに捧げ、あるいはそれが秘めた強大な力を封じたであろう埋納行為を取り上げ、儀礼の様子を復元します。そうすることによって、人々の思想や精神を考察するとともに、社会の奥深い部分に迫ります。



浜松市前原Ⅶ遺跡出土銅鐸
(浜松市博物館所蔵)

■展示のめぐり

1 埋納行為のはじまり

縄文時代草創期にはじまるとされる埋納行為を概観します。

・ 福井県鳴鹿山鹿遺跡有舌尖頭器（重要文化財）ほか

2 縄文の至宝と埋納

縄文文化を象徴する山梨の出土品を埋納という視点で見直します。土坑に埋納された土器、一緒に埋納された石器や原石などをとおして、縄文社会を概観します。

3 銅鐸埋納

銅鐸は、山梨県内はおろか山梨以東の地域では出土例がありません。しかし、銅鐸は弥生時代を代表する至宝のひとつであり各種教科書にも紹介されていることから、この機会に実物を展示し、その特徴的な埋納行為を含めて銅鐸の社会的意味を探ります。

・ 島根県加茂岩倉遺跡銅鐸（国宝）ほか

4 カミとの交信記録

古墳時代の祭祀遺構を取り上げ、カミに捧げられた貢献物を探ります。

5 大地の霊の鎮めと七宝

古代以降、巨大建造物の建造にあたり、地鎮祭と埋納行為が行われるようになりました。ここでは鎮壇具にこめられた祈りの意味を解明します。

・ 東大寺大仏殿鎮壇具（国宝）ほか

6 黄金を埋める中世社会

貨幣制度の変遷と、現在社会では価値の高い黄金をなぜ、埋めてしまうのか、その社会的背景を考え、中世の世界観を復元します。

これら全体をとおして、価値観の歴史的変遷を復元し、過去の社会に対する真の理解をめぐらします。

■特別展の概要

開催期間：平成20年10月1日（水）～11月24日（月）

期間中は休まず開館します。

観覧時間：午前9時～午後5時

（入館は午後4時30分まで）

観覧料：一般・大学生 六〇〇（四八〇）円

小・中・高校生 三〇〇（二四〇）円

※（ ）内は20名以上の団体料金

※常設展の観覧は、別途常設展観覧料が必要です。

お問い合わせ：山梨県立考古博物館

055126613881

<http://www.pref.yamanashi.jp/barrier/html/kouko-hak/>



大形装飾土器
(甲州市安道寺遺跡出土)

平成20年度山梨県公立高等学校入学者選抜に関する意識調査結果について

— 新しい学校づくり推進室 —

■調査概要

「平成20年度山梨県公立高等学校入学者選抜に関する意識調査」は、今後の入学者選抜の改善のための資料を得ることを目的として、前期・後期募集制度を経験した全日制公立高校（甲府市立甲府商業高校を含む。）の1年生とその保護者の全てを対象に、平成20年4月に実施しました。

○調査項目
「前期募集についてどう思うか」
外 13 項目

○調査対象 単位：人、%

| | 調査対象 | 回収数 | 回収率 |
|-------|--------|--------|-------|
| 高校1年生 | 6,744 | 6,733 | 99.8% |
| 保護者 | 6,744 | 6,601 | 97.9% |
| 計 | 13,488 | 13,334 | 98.9% |

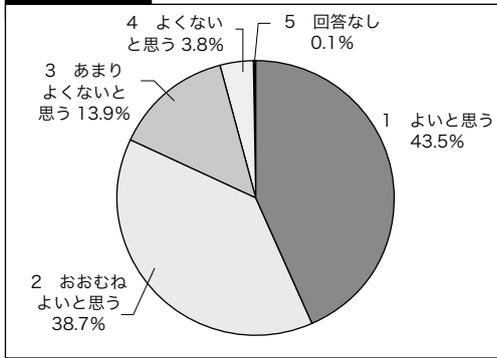
○調査方法
全数調査（各高校を通じて実施）

■調査結果

○生徒の82%は前期募集に肯定的
前期募集について、生徒は、82%が「よいと思う」「おおむねよいと思う」と回答し、「あまりよくないと思う」「よくないと思う」

う」は18%となりました。
保護者は、64%が「よいと思う」「おおむねよいと思う」と回答し、「あまりよくないと思う」「よくないと思う」は35%でした。

高1 生徒

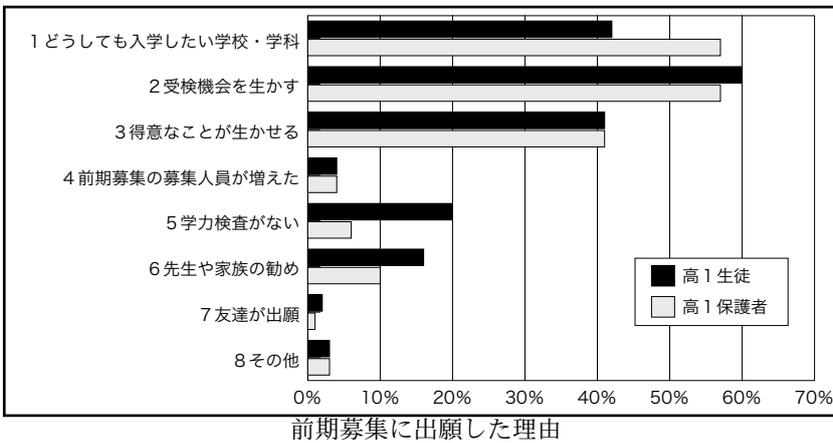


○前期募集に肯定的な主な理由
生徒の回答で多かったのは、「自分の得意分野で希望する高校に複数回チャレンジできる」でした。

○前期募集に否定的な主な理由
生徒の回答で多かったのは、「可否の予想がつきにくい」「不合格者がたくさん出る」「面接や作文などの準備が必要」でした。

○前期募集に出願した主な理由

生徒の50%が前期募集に出願しており、「どうしても入学したい高校」への受検機会を生かせることが主な理由となっていました。



○後期募集にのみ出願した理由

生徒の回答で多かったのは、「後期募集の方が実力が出せる」「前期募集は倍率が高くなりそうで、合格が難しいと思った」「出願条件などがあてはまらない」「万一、不合格になるとショックが大きく、後期募集に影響すると思った」でした。

○「教育方針、志願してほしい生徒像、前期募集選抜方法」利用状況

生徒の72%が何らかの形で志望校決定の参考にしたと回答しました。

○高校を決定する上での参考資料、要因など

生徒、保護者とも、各高校が実施している「オープンスクール（体験入学）」や「学校説明会」が志願先を決定する際の参考にされており、次に「家族、友人、先輩の紹介」となっています。

■調査結果の公表

調査結果は、山梨県教育委員会の新しい学校づくり推進室ホームページで公表しています。

生涯スポーツ社会の実現に向けて

～総合型地域スポーツクラブの設立・育成～

— スポーツ健康課 —

生涯にわたり健康や体力を保持増進していくためには、子どもから高齢者に至るまで、一人ひとりがいつでも、どこでも、目的や体力に応じて、スポーツに親しむことができるよう、身近なスポーツ施設の充実や指導者の育成・確保などの環境を整備することが必要です。

このことを実現するため、県教育委員会では「総合型地域スポーツクラブの設立・育成」に取り組んでいます。

平成25年度までに、山梨県下28市町村ごとに少なくとも1つの「総合型地域スポーツクラブ」の設立を目指し、将来は中学校学区に1つ設立することを目標にしています。

地域で育まれる生活文化としてのスポーツを振興し、生涯スポーツ社会を実現していくためには「総合型地域スポーツクラブの設立・育成」が必要不可欠です。

◆「総合型地域スポーツクラブ」とは

「いつでも、どこでも、だれでも、いつまでも」スポーツを楽しむことができる社会を実現するために、その地域に住む「皆さん」が主役となって、自ら運営・管理をする新しいスポーツクラブのシステムです。クラブでは、いろいろな種目を様々な人たちが、その興味・関心や競技レベルを問わず、それぞれのスタイルで楽しむことができます。

また、スポーツに限らず、社会・文化的な活動も視野に入れ、地域コミュニティの形成にもつながるクラブを理想としています。

◆ 特 徴

- ・自分たちで自主運営
- ・地域住民（会員）の参加
- ・様々な世代の参加（交流）
- ・それぞれのスタイル（興味・関心・技術レベル）に合ったいろいろな活動
- ・様々な活動内容（種目展開）
- ・専門的な指導者の配置

◆ 設立状況

全国の状況（平成20年7月1日現在）は設立済みクラブ数2,233、市町村数736、設立準備中のクラブ数535、市町村数399と報告されています。本県の状況は平成20年7月現在で、7市1町1村に10クラブが設立されています。設立計画については表-1のとおりです。

総合型地域スポーツクラブ設立計画

1 設立済みクラブ 平成20年7月1日現在

| No. | クラブ名(所在地) | 設立年月 |
|-----|----------------------------|----------|
| 1 | NPO法人韮崎スポーツクラブ(韮崎市) | 平成13年12月 |
| 2 | NPO法人ルーデンススポーツクラブ(中央市) | 平成14年4月 |
| 3 | 山中湖スポーツクラブ(山中湖村) | 平成16年3月 |
| 4 | ホワイトウォーターランド白州(北杜市) | 平成16年10月 |
| 5 | 伊勢スポーツクラブ(甲府市) | 平成17年5月 |
| 6 | 玉穂総合スポーツクラブ(中央市) | 平成19年4月 |
| 7 | 都留アスリート倶楽部(都留市) | 平成19年10月 |
| 8 | 大月健やかスポーツクラブ(大月市) | 平成20年3月 |
| 9 | アストリススポーツクラブ(山梨市) | 平成20年3月 |
| 10 | 昭和総合型地域スポーツクラブ(キャメリア)(昭和町) | 平成20年4月 |

2 設立準備中

| No. | クラブ名(所在地) | 設立予定年度 |
|-----|--------------------------|--------|
| 1 | フラッグス(富士吉田市) | 平成20年度 |
| 2 | 美スピリットスポーツクラブ(甲府市) | |
| 3 | 甲州スポーツ倶楽部(甲州市) | |
| 4 | わいわいスポーツクラブ(笛吹市) | 平成21年度 |
| 5 | 南777市総合型地域スポーツクラブ(南777市) | |
| 6 | クラブ富士山(富士河口湖町) | |
| 7 | かじまるスポーツクラブ(鯉沢町) | |
| 8 | ハヶ岳総合型スポーツクラブ(北杜市) | |

3 市町村設置率

$$(\text{設立済み市町村数} + \text{設立準備委員会設置市町村数}) \div \text{市町村数} \\ (9 + 6) \div 28 = 53.6\%$$

4 設立予定

| 市町村名 | 設立年度 |
|----------------------------|--------|
| 甲斐市・南部町・市川三郷町・鳴沢村・西桂町・上野原市 | 平成22年度 |
| 増穂町・忍野村・小菅村・身延町・早川町 | 平成23年度 |
| 丹波山村・道志村 | |

<表-1>

◆ 設立に向けて

「総合型地域スポーツクラブ」の設立のために、スポーツ健康課、体育協会、広域スポーツセンター、教育事務所、市町村教育委員会などが連携して取り組んでいます。

広域スポーツセンターは、「総合型地域スポーツクラブ」の設立・育成を目的に設置された組織であり、所属するクラブ育成アドバイザーが未設立市町村を訪問して説明、設立要請したり、設立済みクラブを支援しています。詳しく知りたい方は、やまなしスポーツ情報ネット 広域スポーツ支援サイトをご覧ください。

URL <http://www.sports.pref.yamanashi.jp/ysi/>



学ぶたのしみ、生きるよろこび 『山梨ことぶき勸学院・大学院』

— 社会教育課 —

山梨ことぶき勸学院は、高齢者に対して、専門的かつ継続的な学習の場を提供し、高齢者の生きがいづくりと、活力に満ちた地域づくりの指導者養成を目的に、昭和62年に設置された高齢者のための生涯学習大学校です。現在、山梨ことぶき勸学院は、県下9箇所地域学園があり、入学資格は、県内在住で概ね60歳以上の、健康で学ぶ意欲のある方を対象としています。

また、大学院は、勸学院の卒業生を対象に、更に専門的な学習を行う場として、甲府と都留に設置されました。平成19年度までの卒業生は、勸学院・大学院合わせて延べ9228名になります。



— 授業風景 —

□多岐にわたる分野で構成された豊富な学習内容
勸学院の学習内容は、「地域学園講座」「中央ふれあい行事」「選択講座」の3分野で構成されています。

地域学園講座は、「高齢社会を生きる」「ふるさと山梨に学ぶ」「日本の心を見つめる」「時代の潮流をとらえる」「地域を創る」の5つのテーマで構成されており、大学教授や元教師、弁護士や税理士、美術館・文学館等の学芸員といった、それぞれの分野での第一人者を講師として、専門的な内容の講座を実施しています。勸学院生の向学心は強く、講座への出席率は常に90%を超え、講座修了後のアンケートでも講座への興味関心・満足度の高さを窺うことができます。

中央ふれあい行事の1つである勸学院祭は、勸学院最大の行事であり、勸学院生は、この日のために趣向を凝らし、練習を重ねた、各学園毎の合唱・ダンス・演劇等の日頃の成果を発表します。生き生きとした表情や動きは、勸学院生パワーを感じさせます。また、毎回この機会に小中高生による合唱・吹奏楽・太鼓演奏等も行われ、若者との交流の機会となっています。

選択講座は、県・市町村・大学等が開設する講座を受講したり、1年生は1日、2年生は1泊2日の研修旅行を行います。方面は県内外様々で、各学園で計画し、勸学院生の交流を深める機会ともなっています。更に希望者によるパソコン・ハイキング・絵手紙等のクラブ活動もあり、多くの勸学院生が熱心に取り組んでいます。



— 勸学院祭での発表 —

□更に専門的な学習を行う大学院

大学院甲府学園には、「郷土史」「ふるさと民俗」「文芸」「くらしと環境」の4つのコースがあり、大学院都留学園は、「文芸・郷土史」コースを、大月校と吉田校の2校で実施しています。2年間の研究をまとめた「卒業レポート」は、専門性の高いものであり、冊子「年輪」にまとめられます。

□活力ある地域づくりの指導者について

地域の地域による人づくりが求められている中で、勸学院では、地域リーダーの養成として、講座「地域を創る」の中で、「地域課題を探る」「高齢者の役割」「地域への貢献」などの講義を行っています。

勸学院生の多くは、勸学院で学んだことや、長年培ってきた知識や技能を生かした地域貢献に取り組んでいます。

ミュージアム甲斐・ネットワーク

～県内博物館等の連携による活動の活性化と利用者サービス向上を目指して～

— 学術文化財課 —

県内の美術館、博物館等が、相互に連携して活性化を図り、活動の充実や利用者へのサービスの向上を目指す「ミュージアム甲斐・ネットワーク」を広く知っていただき、皆さんに利用していただけるよう、会員施設の紹介をします。



環境省生物多様性センター Biodiversity Center of Japan (富士吉田市)

環境省生物多様性センターは、日本の自然と生物多様性を守るために設置された施設です。

センターの機能として、「自然環境保全のための調査」、「標本資料の収集・保管」、「情報の収集・管理・提供」、「普及啓発」を行っています。

「普及啓発」のための常設展示室があり、次の内容の展示をしております。

- 1 生物多様性とはなにか？
- 2 生物多様性から人はどのような恵みを受けているのか？
- 3 世界の生物多様性はどのようになっているのか？

- 4 生物多様性の危機。
- 5 生物多様性の大切さについて考える。
- 6 生物多様性はどこまでわかっているのか？
- 7 生物多様性を守るためにどのような取り組みが行われているのか？

環境教育の入門として、是非、ご来館ください。

住所：山梨県富士吉田市上吉田剣丸尾 5597-1

電話番号：0555-72-6031（代表）

連絡担当者：山田陽子

休館日：年末年始、11月～4月の土日祝日

入館料：無料

駐車場：有り（無料）身障者1、バス3、普通30



自然環境の保全に配慮した生物多様性センターの建物



見学者への説明の様子

北杜市長坂郷土資料館（北杜市教育委員会）

当館は八ヶ岳南麓の近現代史を中心に展示を行っています。

みなさんは、日本ではじめて原告が勝った公害裁判の訴訟が、北杜市長坂町にあったことをご存じですか？地元小学生が調べて描いた7枚の大きな絵パネルで、明治・大正時代の歴史を学びながら、この裁判資料を見ていくことができるのが、「信玄公旗かけ松事件～日本ではじめての公害裁判勝訴例～」の展示です。

また、館内に展示されている80年前に描かれた絵の複製「山国の秋(試作)」(東山魁夷画)を読み解くことでも、八ヶ岳南麓の生活・歴史にアプローチできます。



「信玄公旗かけ松事件」小学生たちがこの事件を調べ、大きな絵パネルをつくりました。

主な展示：「八ヶ岳南麓の民家」「日野春駅・長坂駅ができた頃、できるまで」「堀内柳南と八ヶ岳夏期高原大学」その他、随時企画展開催。

住所：山梨県北杜市長坂町中丸 1996

電話番号：0551-32-6498

連絡担当者：澤谷・井出

休館日：毎週月曜日、休日の翌日、12/27～1/4

入館料：小中学生 100円、大人 200円

(20名以上の団体は半額)

駐車場：普通10、大型バス可



「生活体験ができる八ヶ岳南麓の民家」東山魁夷さんの絵「山国の秋」が、100年前の世界へ連れていってくれます。



らくがき

「青春時代」

山本 創平

小学校の卒業文集に「将来はプロサッカー選手になる！」と力強いメッセージを書いた記憶がある。当時、Jリーグが開幕し、ちょっとしたサッカーブームになっていたせいであろう。どうやら、山本少年はブームに流れやすかったようである。そして、中学校の卒業アルバムを開くと、そこに今度は「甲子園」と、力強く書かれていた。見事なまでの変心(?)である。中学生の私にどんな変化があったのか、記憶が定かではないが、憧れの舞台へ出場するという夢を持って、高校に入学したのである。

高校時代は、まさに「青春時代」であった。焼けるような熱いグラウンドの上で、チームメイトと「気合だ！根性だ！！」と、一昔前のスポ根ドラマのように泥と汗にまみれた時間を過ごした。部活が私の体の大部分を占領していたが、その合間を縫って時には勉強もしたし、思い出せば恥ずかしくなるような恋もした。

時は流れ、それから10年近くが過ぎた……

巨摩高校に赴任し、3年目の夏。グラウンドで心一つに白球を求めて走る球児たちの姿に、昔の自分が重なって映る。『負けてらんない!!』今年も熱い夏で幸せだ。

(巨摩高等学校)



「指はまほうの探知機」

白倉 明美

見えない君のなめらかな指遣い、指先が丁寧に輪郭をたどり、部分と部分をつなげて頭の中にイメージを作り上げ、全体を捉えていく。魔法のような細やかな指先の動き。それは、これまでの積み重ねが生み出したもの。

見えない君が紡ぎ出す言葉。触った物を自分の中でじっくり言葉に置きかえていく。決して言葉あそびではない。説得力のある言葉。これまで、しっかり体験して実感してきたから生まれてきたもの。

見えなくても、移動する自由を持ち旅するあなた。イメージを持ち、行動する。人間の行動力と探求心の本質を思い知らされる。

いつも私たちが見ているものを、掌で、指先で触って確かめてみたら何を感じることができるかしら。どんな言葉で表現できるのかしら。

いつも車で移動している所を歩いてみたら、どんな匂い、どんな音、どんな足触りの世界が広がるのかしら。

今まで気付かなかった自分の感覚に気付くことができるかしら。

触り始めたばかりの可愛い手、可愛い指先が様々な可能性を生み出していく。魔法の手。

そんな素敵な世界を生み出す瞬間に出会える幸せな時間。

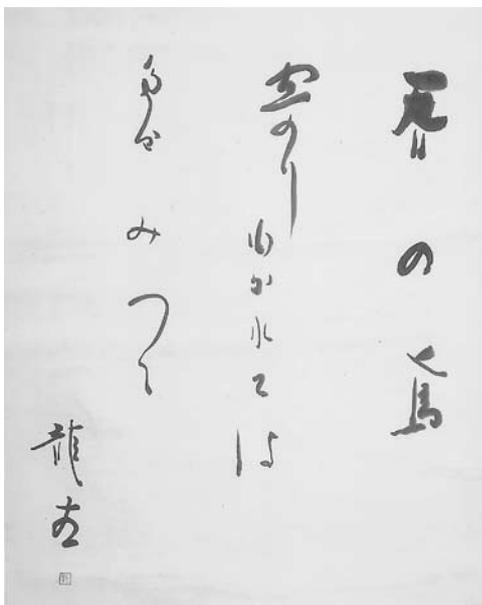
※タイトルはポプラ社発行『障害』について考えよう1指はまほうの探知機』から引用

(盲学校)

— 県立文学館 平成20年度秋の企画展 —

飯田龍太展

会期 平成20年9月27日(土)～11月24日(月)



春の鶯寄りわかれてはたかみつつ

戦後の日本の俳句界の第一線で活躍し、昨年2月に亡くなった俳人飯田龍太は、山梨県境川村(現笛吹市境川町)に俳人飯田蛇笏の四男として生まれました。三人の兄を病死、戦後で相次いで亡くしたため、戦後は父蛇笏を支えて俳誌「雲母」の編集に携わり、生涯故郷境川村小黒坂で俳人としての道を歩みました。

写真の「春の鶯寄りわかれてはたかみつつ」は、終戦後、自宅で農耕に従事していた頃に詠んだ、龍太26歳の時の句です。豊かな詩情で風土を包み込んだ句は、「雲母」の枠を越え、広く俳壇から注目されました。

本展では、飯田龍太の生涯と業績を、直筆の墨書や原稿、また、作家井伏鱒二との往復書簡、愛用の釣り竿やカメラなど約三百点の資料で紹介し、その作品の魅力と素顔に迫ります。

人間としての在り方、生き方を考える教育の実践

～ 理想の生き方の追求とその実現する力の育成をめざして ～

北杜市立明野中学校

本校は、四方を山々に囲まれ緑豊かな自然環境に恵まれた
峡北地方の東部、明野町のほぼ中央に位置し、全校生徒は
142名です。平成19・20年度の2年間にわたり、文部
科学省から韮崎工業高校との連携による「道徳教育実践研究
事業」の指定を受け、「人間としての在り方、生き方」を考え
る教育を実践しています。

◇ゲストティーチャーを招いての道徳授業

本校では、道徳の時間に地域の方々をゲストティーチャー
として招き、道徳の授業実践をしています。5月28日(水)
には、2年生の道徳の時間に山梨県消防防災航空隊の隊員の



ゲストティーチャーを招いての道徳授業

方をお招きし「働く意義」について学びました。

◇韮崎工業高校との学習交流発表会

今年度も年が明けた2月6日(金)に、両校で「総合的な学
習の時間」を中心に取り組んできた課題研究の成果の発表会
を予定しています。発表活動を通して地域の中学校と高校と
の交流を深め、「人間としての在り方、生き方」を考える機会
とすることをねらいとしています。この取り組みは今年度で
6回目になります。また、10月28日(火)には、韮崎文
化ホールで大野靖之さんをお招きし、韮崎工業高校と合同で
道徳コンサートを開催する予定です。



昨年の韮崎工業高校との交流発表会

熱くて、楽しくて、真面目ーそれが、東高校のスタイル 県立甲府東高等学校

「私がブドウ畑に隠しておいたものを探すが良い。残らず見
つかるだろう。」(イソップ物語)甲府東高校は30余年前にブ
ドウ畑を切り拓いて生まれました。すでに約1万名が、葡萄
の智恵の実となって巣立っていきました。

学びのスタイルは、「到達度学習」。单元ごとに「目標設定
→授業→到達度試験→補習」を繰り返し「全員の目標達成」
を目指しています。その根幹は、授業です。今年度から「55
分授業」(55分×6校時、カセット方式33単位時間)を導入
しました。1時限、1日、1年間それぞれの単位で授業時間と
多様な選択を確保することによる「充実」と「ゆとり」の両

立がねらいです。また、金曜日の6校時は「探求サプリ」の
時間とし、放課後の自主的な「学び」を強力にバックアップ
しています。

「自律」(校訓)の心を育てるもう一つの柱は生徒会活動で
す。80%を超える入部率の部活動では、サッカー部、水泳部
(水球部)などが全国で活躍しています。また、学年縦割り「ブ
ロック制」による蒼龍祭(学園祭)は、東高校のスタイルー
熱くて、楽しくて、真面目ーを生徒自らが継承していく一大
イベントとなっています。

今も、「のぞみ高く」抱く智恵の実が育っています。



「蒼龍祭」全校制作



「ブロック発表」<学校説明会にて>



校舎と「のぞみ高く」像

教職員のライフステージに応じた研修の機会を

— 総合教育センター教育指導部 —

◆教職員の確かな力量を高める

教育基本法等の改正や学習指導要領の改訂などにより、「生きる力」の育成や習得と育成の重視、豊かな心と健やかな体の育成が学校教育に求められています。このことは取りも直さず、教職員自身が教職に対する使命感や豊かな人間性を培い、教育の専門家としての確かな力量の向上が欠かせないということでもあります。

子ども理解力、生徒指導力、集団指導力、教科等指導力、危機管理能力、マネジメント能力、問題解決能力、人間関係能力、コミュニケーション能力等々の向上のため、教職員研修はこれまで以上にその充実が求められています。

総合教育センターでは、管理職研修や主任等研修、経年研修などの教職経験や職能に応じて受講が義務づけられている「必修研修」と、教科等研修や教育課題研修など、専門的な知識や実践的指導力を高める「希望研修」を行っています。

本年度は、延べ788研修会を実施し、教職員のライフステージに応じた、多様で、充実した研修の機会を提供し、約9800人の教職員が受講しています。



(書写・書道実技研修会)

◆十年経験者研修で専門性を磨く

十年経験者研修は、教育公務員特例法に基づき、在職期間が10年に達した後の一年間に、一人ひとりの能力や適性等に関して評価を行い、その評価に基づいて計画的に実施するものです。

本県では平成15年度から、市町村の教育委員会の協力を得て、県教委が実施しています。

本年度の十年経験者研修の対象者は、小・中・高特別支援学校を合わせ、94名となっています。これらの先生方は教職経験10年を経過し、学校内での役割や責任は大きくなり、教育活動の様々な場面で中堅教員としての活躍が期待されています。

5月20日に開講式と第一回研修会が開催され、本年度の研修が始まりました。

十年経験者研修の主な内容は、

①総合教育センター等で実施する研修

教科指導や生徒指導、大学での研修講座、共通研修のマネージメント研修・今日的な教育課題研修、また適性に応じた得意分野づくり等の選択研修が15日以上

②所属する学校での研修

総合教育センター等の研修を生かし、修得した知識や技能、指導法に基づき、学校内において、授業実践による授業研究や教材研究、特定課題に関する研修等を20日間程度とнаっています。

総合教育センター等での研修は、日常の教育活動では、得たい専門的な知識や技能、実践的な指導法などを身に付ける機会となっています。そして、今後の教育実践の充実と、児童生徒の指導に関する有意義なものとなるはずですが、

さらに、十年経験者研修を通じて、これまでの教職生活を振り返り、自分自身の存在意義を確立するとともに、自分らしさを形成する良い機会としたいと思っています。

児童生徒や保護者、地域社会から信頼される教職員が求められております。総合教育センターでは、教職員の専門性を一層磨くことができるよう、より質の高い研修が提供できるように努めて参ります。



(邦楽実技研修会)



(造形遊び研修会)

(教科研修会の様子)

新委員長に

金丸康信氏が就任

県教育委員会では、興石順一委員長の任期満了に伴い、6月20日の教育委員会において、後任の第70代委員長に金丸康信氏を選任しました。新委員長の任期は平成20年6月21日から同年12月20日までです。

大分県教委の教員採用試験を巡る不正事件をきっかけに、教育行政に対する信頼が大きく損なわれ、教育委員会制度自体の存在意義にも疑問の声があがるなど、教育行政は今、大きなピンチの時を迎えています。

この7月、皮肉にも事件の渦中の大分で開かれた全国の教育委員長・教育長の会議で、文部科学省の金森初等中等教育局長は、「専門家集団としての教員社会の閉鎖性が事件の背景になっているのではないか。」と指摘し、「民間から選ばれている教育委員



委員長
金丸康信

がもつと主体性を発揮して、本来のチェック機能を果たすべきだ。」との見解を述べられました。

山梨県教育委員会では、現在、県の教育振興基本計画（仮称）の策定や、10年後を見据えた新たな県立高等学校の整備構想の策定など、多くの課題に直面しています。

ピンチは逆に改革のチャンスとも言えます。我々教育委員を含めて、県教育委員会全職員がさらに襟をただし、公務員に対する信頼回復に努めていきたいと思えます。

新委員に

久保嶋正子氏が就任

県教育委員会では、興石順一委員長の任期満了に伴い、後任の教育委員として、久保嶋正子氏が知事から任命されました。新委員の任期は平成20年7月10日から平成24年7月9日までです。

奇しくも大分県教職員採用汚職事件が明るみとなり、日本中が教育委員会や教職員に疑いの目を向ける中での就任となりました。

日ごろから子供たちのために懸命に尽力されている先生方にはあまりにも気の毒な事であり、教育委員としてもこうした事態を払拭すべく努力して参りたいと存じます。

世の中が目まぐるしく変わる今日、ゆとり教育など政府方針も数年のうちに直され、保護者の間に動揺の声も聞かれ



委員
久保嶋正子

ます。しかしながら子供たちが成長するために、保護者は何をすべきか、行政は何をすべきか等を考える中で、本当に良いと思うならば、前例踏襲ではなく思い切った見直しをしていくことが必要と考えます。

今回私は保護者委員として教育委員の任を拝命しましたので、保護者の立場から、その悩みや意見を委員会に反映し、本県の教育が子供たちの未来をなお一層明るくしていくことができるよう、職務を全うしていきたいと思っております。

レファレンスの道工具箱 *洋書について調べてみましょう！*

山梨県立図書館

外国語の本も、インターネットを通じて簡単に検索することができます。

◆洋書を調べる

・「**NDL-OPAC**」(国立国会図書館) <http://opac.ndl.go.jp/index.html>

洋雑誌新聞、洋図書を検索でき、洋雑誌についての記事検索もできます。

・「**やまなし子どもの読書情報 各種所蔵リスト 洋書リスト (児童用)**」(山梨県立図書館)

<http://www.lib.pref.yamanashi.jp/tosyokan/kodomo/yosho.xls>

◆日本文学の外国語訳を調べる

・「**日本文学翻訳書誌検索**」(国際交流基金) <http://www.jpff.go.jp/j/db/index.html>



★洋書を無料で読むには……「プロジェクト・グーテンベルグ」

http://www.gutenberg.org/wiki/Main_Page

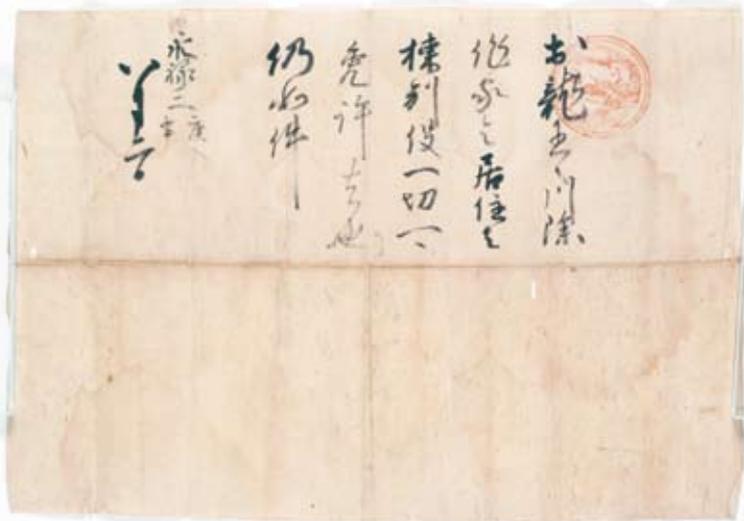
山梨の文化財

県指定有形文化財（書跡）

保坂家文書

（昭和四十四年十一月二十日）

武田信玄が、甲府盆地を釜無川の洪水の惨禍から解放すべく、普請を始めたのが信玄堤であることはよく知られています。時期は定かではありませんが、信玄は、後に「上川除」と呼ばれる堤防を築くよう命じました。そして普請の目途がついた永禄三年（一五六〇）に、堤防の維持、管理と、旧河道を耕地にするための拠点として、竜王河原宿の建設を計画しました。そして、住人を募集すべく発布したのが写真の文書です。信玄は、永禄三年八月二日付で、住人募集に依じて竜王に移住し、家を



建てた者には、今後は棟別役（家屋税）などの税金を一切免除すると通達しました。そのため、同年までには、篠原を始めとする近隣十か村から、五十人の移住が確認されています。

保坂家には、戦国時代の竜王河原宿の人々が、信玄堤の修復や、堤防に繁茂する竹木の育成と無断伐採の監視など、洪水を防ぐための重要な役割を担っていたことを示す貴重な史料が残されており、先人たちの水との苦闘の様子を今に伝えています。

主な行事予定

県立美術館

特別展

「開館30周年記念 県美30年の歴史
わたしが選ぶこの一点」
9/13～12/21

県立博物館

秋期企画展

「甲州食べもの紀行
山国の豊かな食文化」
10/11～12/8

考古博物館

特別展

「埋められた財宝
大形装飾土器、銅鐸そして埋蔵金」
10/11～11/24

県立文学館

秋の企画展

「飯田龍太展」
9/27～11/24

県立図書館

「資料紹介展示
「本でめぐる富士山―大噴火から保護活動まで」」
9/19～11/22

表紙を飾る



作品タイトル

「花にやどる妖精」

ふじざくら支援学校の高等部では美術の中でグラフィックデザインを扱っています。この絵はコンピュータを使って描かれたものです。コンピュータでの塗りつぶしを考えて線画を描くことに苦労はしたようですが、色を塗っていく時にはその特性をいかし、何度も試行を繰り返し、実際に塗った色を見ながら、納得がいくまで塗り替えていました。絵のイメージは、太陽からのエネルギーを花の妖精が受け、そのエネルギーを花に受け渡している様子を表しているそうです。

指導者 梅津圭吾 教諭

山梨県立ふじざくら
支援学校
高等部2年
稲葉道子

「声かけ あいさつ」みんなで実践!!

◆教育に関する疑問、質問等がありましたらお気軽に E-mail 又は FAX して下さい。

アドレス: kyouikusom@pref.yamanashi.lg.jp FAX: 055 - 223 - 1744

◆教育やまなしのバックナンバーがインターネットでご覧いただけます。

URL: <http://www.pref.yamanashi.jp/barrier/html/kyouiku/46150769857.html>